

会議録

| | |
|---|--|
| 会議の名称 | 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会・第3回会議 |
| 開催日時 | 平成27年9月15日(火) 午後3時00分から午後5時5分まで |
| 開催場所 | 田無庁舎3階 庁議室 |
| 出席者 | (委員) 有賀委員、大河内委員、小関委員、近藤委員(代理:西委員)、坂口委員、徳丸委員、土堤内委員、長島委員、成田委員、和田委員 (事務局) 児山企画部主幹、佐野企画政策担当主査、長塚企画政策担当主査、海老澤企画政策担当主査、支援事業者((株)インテージリサーチ) |
| 議題 | 1 開会 2 前回会議録の確認 3 調査結果追加分析およびワークショップによる市民意見について 4 西東京市総合戦略について 5 その他 |
| 会議資料の名称 | (配布資料) 資料1 第1回市民ワークショップのまとめ 資料2 西東京市総合戦略(素案作成に向けて) 資料3 西東京市総合戦略 取組と施策(案) <全体構成> 資料4 西東京市総合戦略の基本構造<最終形イメージ> 資料5 第2回策定懇談会会議録 (参考資料) 1 第2回策定懇談会での質問内容の反映について 2 第2回策定懇談会でご指摘いただいた各種調査追加分析データ 3 西東京市自治会・町内会一覧 4 西東京市人口ビジョン案の概要(No.3)の抜粋 5 近隣市比較データ |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p>1. 開会 ○小関座長： 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会第3回会議を始めます。本日は傍聴の方1名です。本日はよろしくお願ひします。</p> <p>2. 前回会議録の確認 第2回の会議録について、この場で確認いただくとともに、修正等があれば後日事務局までご連絡をお願いいたします。</p> <p>○各委員： 意見なし</p> <p>3. 調査結果追加分析およびワークショップによる市民意見について ○インテージリサーチ： 参考資料1~3に沿って説明</p> | |

○小関座長：

質問等があればお願いします。

○土堤内委員：

参考資料3の自治会の加入数は全体で2割くらいというお話でした。富士町は3%ですが、ここは団地があるということですか。

○事務局：

数字は、現時点で市が把握しているものとなります。富士町包括エリアは元々農家の方が多いことや、そもそも地域の繋がりが少ないなどから、コミュニティが形成しにくいエリアなのではないかと考えています。

○土堤内委員：

新住民が入ってきているエリアではなく、ずっと住んでいる方が多いエリアということですか。

○徳丸委員：

富士町の具体的な自治会名を見ると「プロムナード東伏見自治会」とあります。プロムナードは巨大団地ですが120戸しか加盟していないことを考えると、そこに人はいるけれど加入していないお宅が多い。そうすると加入割合としては減るということですか。

○事務局：

富士町包括エリアは東町、中町、富士町の三町を1つとしており、1つの町では他と比べるとそのような特徴があると考えています。

○和田副座長：

全ての地域で町会が組織されていますか。

○事務局：

概ね組織はされていると考えますが、エリア的に抜けているところもあると思います。

○和田副座長：

入りたくても町会自治会がないと加入できないですね。西原町は3自治会しかありませんが、行政区域名で考えると10くらいあるはずなのに3つしかできていないということですね。

○長島委員：

参考資料2の2ページ目の分け方はこれしかできないのですか。「その他」は北多摩と23区隣接市と杉並練馬以外と言われても、よく分かりません。

○インテージリサーチ：

区部とより近い区部として杉並、練馬を位置づけ、更に西東京が入る23区近隣市、あとは北多摩としています。

○有賀委員：

例えば葛飾、江戸川と文京、豊島は一緒なのですね。西武線沿線の人たちが葛飾から来ることはあまり考えられないけれど、豊島、新宿、文京なら可能性があります。都内

を東西とか、もっと分けた方がいいと思います。

○有賀委員：

区部という括りも、もうすこし詳しく分けた方が良くと思います。

○インテージリサーチ：

23区隣接市は、武蔵野、三鷹、調布、狛江など23区に隣接している市、いわゆる24区です。

なお、先にご説明ができておりませんでした。本資料については、サンプル数の問題で留意いただきたいことがあります。トータルで見ると100人以上ですが、それを細かく属性別に見ていくと、1セルのサンプル数が30を割ります。確かさで言うと1セル50サンプルくらいは欲しいので、参考値としてください。傾向としては確認できますが公の資料として出すものとは別になります。

4. 西東京市総合戦略について

○事務局：

資料2、3に沿って説明

○小関座長：

本日皆さんからご意見をいただきたいところは、「人口の将来展望」、「総合戦略のポイントとなると思われるキーワード」の部分です。また、関連施策・事業の下にある理由・考え方についてもご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

○長島委員：

社内でも西東京市の分析をしましたが、あまり特徴が出てきません。逆に、それが特徴と言えるのではないかと感じています。意見をまとめた資料をお配りしましたが、取組1、2、3、4の順番を、西東京市の中で交流人口や定住者を増やすことよりも、住んでいる市民の方々の満足度を上げて行くことによって子どもを産みやすくし、ずっと住んで終の棲家にしてもらう、という発想で入れ変えました。スタッフと議論して、西東京市で一番重要なのは「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」ことではないか、ということになりました。待機児童の問題が北多摩ではトップになっています。創業支援、企業・NPOとの協働によって、若い世代の結婚、出産、子育てをお世話したい人たちを引っ張り出してくる生活関連サービスの充実があればいいと思いました。

取組の2番目は高齢化だろうと思います。地域コミュニティの担い手、マンションに住んでいる方が6割という数字がすごく高いので、西東京新住民のようなその人たちをどう協働に加えていくかが重要だと考えました。

取組の3番目は産業振興で、総合施設や在宅ワークの話を書きました。矢印の2つ目は、地域の事業所を把握している人がいないと思うので、どんな事業所があるか把握したらどうかと思います。環境としての農業振興は、点在している農業の場所がなくなってしまうという話がありましたが、その切り口を変えて、子育て支援や、引っ越してくる理由として農業をどう守っていくかという切り口で考えたらいいのではないかと思います。

取組の4番目は、取組1をあえて入れました。定住促進や交流人口は増やさなくていいのではと考え、今住んでいる市民の満足度向上に変えました。これが皆さんの議論の土台になればいいと思います。西東京市地域コミュニティ検討委員会の報告書によると、約6割が共同住宅に住んでいます。地域に愛着がなく、安いから、近いから、アクセス

がいいからと住んでいる人たちにどうやって西東京を故郷と思ってもらうかがポイントで、「都会の田舎をアピールする」ことだと思います。西東京市で全部を揃えるのではなく、都心や吉祥寺との広域連携を活かし、そこで揃う物は揃えてもらい、西東京は外にPRするより、のんびりと実は住んでみると豊かだという感じを伸ばすのも1つだと思います。

また、武蔵野地区の市民の方や市役所は、苦しい西多摩地区を応援するということが私は推奨しています。人口が減って2000人、3000人になる町がどんどん出てきますが、この水が確保できているのも奥多摩のおかげです。奥多摩や羽村を応援してあげるなど、東京だけではなく近隣の姉妹都市のような所を、多少余裕を持って応援することも施策の中に書いて欲しいと思います。

下に枠を括ったのが、資料2で「視点」と書いてあったところです。視点の所を読んで足りないなと思ったのが、全部を行政の方がやるという感じの切り口になっていることです。優秀な市民の方が多いので、協働、コミュニティの活性化のようなことをしっかり謳った方がいいと思いました。基本的な姿勢として3つポイントがあり、広域連携を具体的にどう書くか、地域コミュニティの活性化、協働のまちづくりをどう促進するかという切り口を至る所に入れることや、コスト削減を入れた方がいいと思います。特に一番後に合併した町なので、公共施設を削減して行って、将来の蓄えをしっかりと保つということは、視点の中に入れて方がいいと思います。そこで、カラーの資料を作りました。西東京市の主要企業と近隣の主要企業と2枚あります。西東京市だけでは企業数は限られますが、近隣市区の企業にたくさんの人たちが通勤していることが想定でき、西東京市は新宿や千代田区に勤めている方が多いです。小平までくると都心に通っている方が激減します。武蔵野、西東京、三鷹、調布は新宿、千代田区に通っている方々が沢山います。昼間はいなくて、夜になって帰ってきて飲みも遊びもしないという人が沢山いるので、その人たちをどうやってファンにさせていくかということです。もう1つには西東京市の主要企業を挙げました。シチズンのような企業もあり、西武線の影響で西東京に勤めている人は所沢の方から来ていて、これは他の多摩地域の市町村にはない傾向です。馴染みのない場所には引っ越しづらいので、多分引っ越している所は所沢、狭山、入間という感じではないかと個人的には思っています。

○成田委員：

資料2の7ページの比較はなかなかおもしろいと思います。この表は西東京の性格を浮き彫りにするために、北多摩5市と、また23区隣接市と比較していて、右の順位を見ると、北多摩5市の中では抜きん出ています。逆に23区の隣接市の中では、それほどでもありません。介護施設とスポーツ施設以外では下位の方になります。こういう比較で西東京市のキャラクターが見えてきます。北多摩5市という住宅都市の特徴を持ったエリアの中での特徴、それから23区隣接市と商業など賑わいの中で連携することで、本当の西東京市の特徴等が活かせると思います。市の戦略をまとめていくと同時に近隣との連携を図ることもできます。例えば吉祥寺などの賑わいや、西多摩の大自然観光など、既にある北多摩5市の協議会などを活かして広域連携を進めていけばいいと思います。逆にそういった部分を考えていかないと、西東京市にとって本当の意味での地域活性化や将来展望に繋がらないと思います。色々な団体との比較や連携をすることが今後大切だと思います。

○小関座長：

第1回目の会議でも広域的な視点についてはご意見をいただいていますので、事務局の方でも検討できればと思っています。

○土堤内委員：

1 つ目としては、総合戦略というのは西東京の都市型戦略です。企業で企業戦略を考える時には理想とするビジョンがあります。だから資料 4 の「基本目標と基本方向」の前に、西東京はどういう都市でありたいかというビジョンが定まらなければならないと思います。広域連携の中で 1 つの役割を果たすような 1 つの中核になるとか、そういうことをきちんと位置づけないと、その後の具体的な施策の方向性がバラバラになってしまうと思います。

2 つ目は、5 つ挙げられている視点についてです。多世代、アクセス、生活産業など、全てが絡み合って 1 つのビジョンに向かっていきます。それぞれの関係性を整理すると、キーワードが明らかになっていくと思います。

3 つ目はそれぞれの箱の中の話になります。取組 3 で地域を活性化していく上で、雇用の場を作ることは非常に重要な柱になると思います。その対象が女性というのは大事な話ではあるけれど、人的な資源と考えると、今回の人口構造の変化から読み取れるのは高齢者が増えることで、その人たちの新たな就業の場をどう地域に作るかが問題になります。特に都心、新宿や千代田に流出していた人たちの能力を生かす場をどう地域に作るかが、大きな課題だと思います。取組 3 で、ターゲットにするのは今の働き盛りだけではなく、従来であればリタイアするような人たちをいかにここで活かすかということを加えていただきたいと思います。

○有賀委員：

私も西東京市の目指すところが先がないと、全体がバラバラになってしまう気がするので、そこをまずしっかりする必要があります。長島委員は PR することを後ろにされたけれど、実はこの前のワークショップではどのテーマで話をしても PR 不足という話が市民から出てきました。町の中で情報をよく流通させる、それによってこの町に住んで良かったと思える、この町はこういう町だよねということを伝えていくことです。高齢者を活かす町とおっしゃいましたが、伝え方が必要です。社会増を目指すためには、外から呼んでくる必要があると思います。そのために、この町の特徴を市内にも市外にも知らせていく PR は重要だと思います。その時に、外のどういう人たちに対して呼びかけるかが大切だと思います。社会増が自然増につながるためには、子育て世代をどう呼んでくるかという問題があります。西武線沿線の都心で働いている人で、副都心、新宿、高田馬場周辺の人たちに対して、西東京市は子育てにいい所なので西東京市に住みなさいと PR し、西東京市に住む人を増やしていく。それによってこの町に子育て世代が増えてきて、それが 20 年後 30 年後にまた次の町を背負う人になっていくと思います。子育て世代を外から呼んでくることで、大きなことができると思います。

○小関座長：

今お二人から続けてビジョンが必要というお話がありました。この辺りは事務局の方でも次回に向けて検討させていただきます。取組 1~4 の組み替えで、有賀委員はむしろ PR が前に来た方がいいというご意見ですが、他の方はいかがですか。

○徳丸委員：

有賀委員は色々な所を見ながら情報収集をしていましたが、私がワークショップの出席者として参加して感じたことは、西東京市はいいことをやっているのに皆さんは知らないということでした。ワークショップに出てくる人は、黙っているタイプではありません。その場で何かおもしろいことを知ったら、近所の方や自分のサークルなどでお話しする人だと思います。まず今住んでいる市民の満足度の向上につなげることは大事だと思います。今住んでいる市民が振り返って、実は良かったと思ってくれることが必要

だと感じました。西武線沿線に住んでいる、または通っている人にPRすれば、外から住みに来る可能性が一番高いと思うので、いこいなトレインの広告を載せて走っている時が増えるといいと思います。それから、ワークショップの結論はどう活かされるのかと聞かれたので、まとめの時には、ワークショップの中から出てきた言葉を入れると、市民の方が西東京市は市民の声を聞いていると思ってもらえると思います。そういったちよつとずつの「嬉しい」を集めると、住んでいる人の市に対するイメージが良くなります。ビジョンの元がハッキリしていない中で、最終的な方向性を市民の皆様が見つけてきて、すごくいいまとめになったと思うので、それを活かして欲しいと思います。

○坂口委員：

初回到市長は計画の目的として、人口減少の事実に基づいた将来展望を描く、この町の優しさとふれあいを感じながら次世代の子どもたちにバトンタッチをしていく具体的な戦略を作りたいとおっしゃっていました。それを裏付け具体化するために、色々な調査や市民の声を元に作り上げていこうというアプローチをされていると思っています。それには賛成していて、今回は客観的データを大事にされていると思います。しかし、取組の4つが先にありきになっていて、取組を具体化するための前振りを色々探っている感じがし、趣旨が見えていません。私は愛着まちづくりをしようと思っています。西東京市愛着まちづくりのための戦略を立てようということ、各課の関連する事業が挙げられていますので、これはこれでいいと思います。地方を活性化させる戦略は、既に第2次の総合計画、その中の6つの方向に含まれていると思うので、その内容を加速させるために戦略を位置付けるとしています。そういう発想で進めればいいと思います。

資料4の頭にまず書かれるべきことは、今回の戦略は次世代の子どもたちへの贈り物、ミッションだということだと思います。また、今回は具体的な手法として、市民の声やデータを取り入れたので、共感性が高いというスタンスで、説得力があると思っています。

資料2の「視点について」の5つのキーワードが4つの取組へのブリッジになっていないと思います。多世代の活力をいかすとか、アクセスのよさを強みにするとかではなくて、具体的に西東京市らしさを出すために。

私はアンケートやワークショップの結果を見ていると、視点は3つではないかという想いがしています。1つは多世代が集住しているので、いろいろな人の声を聞きながら絆を深めていく街づくりを推進しているということです。そういう面でバランスが取れた街への道ということで、マインドレボリューションだと思います。2つ目は世界に1つしかない西東京市という土地が持っている地域資源を活かした街づくりを推進しているということです。フィールドレボリューションですね。3つ目は、活気と活力です。地域産業にもう一度着目し、次代の進路を描きながら日々新たな街づくりをしているということです。これはネクストレボリューションだと思います。未来進行形の街だということになります。

この3つが視点として、4つの具体的な取組に結びついていくとよいと思います。

お隣の練馬区の資料に「都会の田舎」という言葉が載っていました。西東京市は、それ以上に都会の華やかさとか賑やかさを持ちながら田舎的な雰囲気があるし、空気もいい、環境もいい、優しさがあると思っています。今後、具体的なまとめをする上でこういう考え方も参考にしてください。

“過去を慈しみながら、現在を紡ぎ、未来を描く西東京市”。過去を大事にししながら現在の多様なニーズに応え、次世代の子どもたちのための未来を描いている。そんな香りを漂わせた総合戦略を期待しています。

○小関座長：

新しい視点でご意見をいただきました。特に資料2の2～3ページの視点のところについてご意見をいただきました。事務局の方でもそういった視点を考えてみたいと思います。

○西委員：

戦略は各自治体で1つつ作る事になっていますが、本年度その戦略に基づいて実施する上乗せ交付金や来年度以降の交付金については、北多摩の自治体での連携も活かしてなるべく広域でできる所から連携して取り組むといいと思います。そういう所に国としても優先的に交付金を実施することになっているので、公益でできる創業支援や観光に関する誘致も連携で実施するといいと思います。

○小関座長：

そのような視点からも検討したいと思います。

○和田副座長：

私は資料を読んだ時、最初の目標、理想についてはご指摘の通りだと思いました。外から見て、施設の面、みどりが多いという面で西東京市は住みやすい町で、特に子育てにはとてもいい環境だと思います。今回のデータを見た一番の印象は、子育て期の流入が多いということで、この市の持つ一番の強みではないかと思います。それは私が最初に受けた印象と、統計上示されていることとかなり重なっています。また、定年期を迎えて現在もここに住んでいる方たちも大事な層だと思います。そこを引きつけていく、つまり、住み続けていく何かをここで整理する必要があると考えています。満足度を高めるために、ここで幸せに暮らせるというものを1つ定めた方がいいのではないかと思います。取組1の中の交流人口の部分には多少違和感を持っていて、むしろ住みやすい住宅都市として生涯ここに住み続ける、とした方がわかりやすく、事実だと思います。大都市的な都市機能の集積よりはむしろ、居住に関わる生活上の利便性を高めるような整備が必要ではないかと思います。

2点目の「視点について」ですが、この5つが同じレベルではありません。上の2つが「活力をいかに」と「アクセスの良さ」を指摘しているにもかかわらず、切れ目や魅力や発想といった部分はよくわかりません。視点は恐らく全てが関連し合っていることが大事になります。どういう都市やまちづくりをすべきなのか、しかもその再生に関わっているという点で、目標と具体的な取組をつなぐ明確化したアピールポイントとして視点を少し再考する必要があると思いました。取組の位置付けについては、特に人口に絞って見ると2年前に見えなかったことが見えていて、現時点で重点的に取り組むべき課題が鮮明になり、問題意識はすごくクリアになっています。PR不足は前から言われていますが、今後も課題だと思います。良いところとしてはアンケートでかなり認知度が高いということです。

○大河内委員：

私はこの町に生まれ住んで65年経ちます。実際西東京市の良さや魅力と言われると具体的にはこれだと言えないですが、バランスが取れている町という印象は確かにあります。うちの裏にできる大きなマンションの見学会に来る方々の構成を見てみると、子どもと言ってもある程度大きい子どものファミリーが見に来ていることが印象的です。先日の同窓会には全部で30人くらい集まりましたが、その中で孫がいる人は5人くらいでした。収入とかではなく、あまり結婚に魅力を持たれていない感じがしました。子どもとか結婚とか、そういうことをわざわざ言うのではなくて、今ある現状を認識してやっ

ていくしか仕方ないのではないかと思います。新宿や池袋から帰ってくると、大泉学園を過ぎると急に空気が良くなって、この町にほっとします。それが西東京市の魅力ではないかと思います。

○小関座長：

ポイントを絞り、取組 1 と取組 2 についてご意見をいただきたいと思います。

○成田委員：

取組 2 だけはなぜサブタイトルがないのですか。1-1、2、3 は市の特徴が入っていますが、2-1、2 は国と全く同じです。データを見ると、西東京は女性のM字カーブの落ち込みが非常に多いので、それをクリアするために近場での働き場の確保などいいことが書いてあります。もう一つは女性の希望出生率で、確か国の方でも究極は 1.8 を目指すということですが、西東京は実際の市民意識調査なのでこれは非常に心強いです。市ならではの特征があるので、この取組 2 についてもサブタイトルがあるといいと思います。西東京市がM字カーブ改善の大きな努力をすれば、それは影響を与えるかもしれません。

○土堤内委員：

それぞれの取組が独立してあるわけではなく絡まっています。仮に若い世代の出産・子育ての希望をかなえられたとしても、現状 20 代後半と 30 代の転出が圧倒的に多く、その原因が雇用の問題であり、それもセットで整備して初めて目標が達成できると思います。そのためには全体の関係性みたいなものも整理しておかないと、現実と違うという話になる気がします。

○徳丸委員：

現在の 4 つの取組は、国から言われている分け方なのですか。

○事務局：

決まっているものではありません。他の自治体では 3 つくらいの柱になっているところもあります。地域性に応じて戦略の方向性、取組の柱を決めればよいということです。

○長島委員：

似ていたら面白くなくなってしまうので、やはり西東京らしさみたいのところを出す必要はあるかなと思います。

○小関座長：

今成田委員からご指摘を受けた点については、資料 2 の冊子 16 ページに「若い世代の結婚、出産、子育て」の所の「理由・考え方」にブルーで「新規」とあります。「理由・考え方」の上から 4 行目で触れていますが、若い世代が、結婚するなら西東京、子どもができて西東京、こういうイメージを持てるようにするというのを新規で挙げているので、この辺りも候補の 1 つかだと思います。具体的な事業の展開方法は次回になります。

○和田副座長：

結婚についてはどのように取り組むイメージですか。

○徳丸委員：

「生み育てるなら西東京」を目指すのはわかりますが、結婚と言われると…。と思います。この町は結婚したい若者がとても多く、西東京らしさと言えばそれかなと思うく

らいでした。それはつまり、この町の結婚する層の親御さんが、結婚したいと子どもにも思わせるような家族だったということだと思います。調査結果を見た時に、若い層に幸せな子が多く、いいことだなと思いました。

○小関座長：

次に、取組 3、取組 4 についてもご意見をいただければと思います。

○有賀委員：

政策をたくさん並べると、そこに縛られるような気がします。参考程度でも今はこんなものがありますがもっとこうするべき、といった内容のものもあるといいと思います。

○小関座長：

資料にある事業は、イメージで掲出しているものです。本日は、事業ではなく骨組み部分を確認させていただきたいので、ご意見をいただければと思います。

○長島委員：

資料の 16～17 ページを見ていると、こういう補助金を出すよとか、こういう施設を作りますよ、みたいなことが並んでいます。市民目線からするとそうじゃないというところがあると思うので、産業の視点、協働の視点、NPOの視点が、取組 2 のところに言葉で書かれていた方がいいのではないのでしょうか。重複になってしまうというお話がありました、その辺の整理をする必要があると思います。3 番目のところは先程のお話の通り全部が網羅されていない、シニアが入っていないということがあります。地域の雇用を維持するために必要だとか、健康管理のために必要だとか、生きがい作りのためとか、市民はその辺を求めているのではないかと思う面もあるので、そのような切り口にしてもいいのではないかと思いました。

○和田副座長：

長島委員がおっしゃった生活関連サービスはすごく大きいと思います。取組 2 はもっと具体性があった方がいいです。

○土堤内委員：

今回は施策を議論することになると思いますが、その時に発想の転換を相当議論する必要があるのではないかなと思います。

○徳丸委員：

視点として載せるのではなくて、出てきたものが、「視点が変わっているね」になっている方がいい感じがします。

○有賀委員：

行政における発想の転換はとても難しいことだと思います。そこで私たちが、というより私たちだけではなく、市民が一緒になって考える必要があります。職員の方たちが今までずっと積み重ねてきたことは活かしながらも、違うことをやるのは市民の意見をどう活かすかということだと思います。それが発想の転換に繋がるのではないのでしょうか。

○小関座長：

順番の組み替えのあたりは、他に何かご意見はございますか。

○坂口委員：

総合戦略の最終目的は、眠れる西東京市民、目を覚ませという 1 つの動機ついで、これで物事が解決するわけではなく、子どもが増えるわけではないです。とにかく私たち目覚めようよと、そういう共感を呼ぶようなものができればいいと思います。漢方薬と即効薬みたいなもので、すぐにできるようなものと、長い時間をかけてやるものがある程度セグメントされながら計画を立てられるといいと思います。同時にいろいろ実施するのは無理ではないでしょうか。

○長島委員

隣の町から取ってくるというやり方は、取られる側からすると辛いです。隣の町から取ってくるよりは、やはり自分のところで生み出していくしかないと思います。他の市町村に比べると西東京市の状況はよく、豊かなまちなのです。西東京市としてやっていくポイントを絞る必要があると思います。おそらく、取ることばかりで生み出していくというセンスがないのではないかと思います。PR して外の人たちに住んでもらうよりも、西東京市の中にいる人たちがよくわかっていないから、町の人たちによく伝えて、しっかりと愛してもらう町になる方がいいと思いますので、順番を下げました。

○和田副座長：

増やすという発想ではなく、全体が縮小されていくのだから、その中で成熟というか、如何にライフスタイルの質を高めていくかになります。こんなにバランスが取れた、高齢者も子どもたちもいる市町村はなかなかないと思うので、これをアピールしていくことが必要だと思います。

○成田委員：

発想を転換するという議論の中で、市民の声を聞いたらどうでしょうかというお話がありました。今回はワークショップの 8 月の分の一部抜粋が出ています。先日実施した第 2 回目の意見もまとめていただけるとよいと思います。12~13 ページは、今のそれぞれの組織が行っている施策とその位置づけです。1-1 の下に例えば 3 つくらいこういう意見がありました、というように整理してもらうと、我々も参考になります。せっかくこれだけの財産がありますので、カテゴリーの中に落とし込んだだけでも、何も発想を転換しなくても両方を見れば新しい施策が見えてくるのではないかと思います。

5. その他

○小関座長：

次回は 10 月 19 日の 12 時 30 分から開催させていただきたいと思います。以上で本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(閉会)